

従業員向け	放課後等デイサービス評価表
-------	---------------

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	16	1	時折、身体の大い児童が多い時や動きの多い児童が集まった際にすし狭く感じることがある。 なるべく外のグラウンドや二階のアスレチック施設を利用する工夫をしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	17		児童の安全安心を守る事を第一にそして職員の一人一人の成長を図ることができるよう職員の資質や経歴によって配置を工夫している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17		日々の就業の終わりにスタッフ全員で支援のフィードバックを行い、必要に応じて構造化などの環境調整を図っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	17		日々の支援の後と、翌朝に掃除のチェックリストを作製し、漏れの内容に清潔に保っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16	1	カーテンを使って個別に対応をすることのできる部屋を用意している。また、二階のアスレチック施設を利用して個別の空間を提供することもある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	17		日々の就業の終わりにスタッフ全員で支援のフィードバックを行い、必要に応じて構造化などの環境調整を図っている。 月に一度スタッフミーティングを開き、目標設定や振り返りを行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17		保護者向け評価表を集計し、スタッフミーティングの議案として共有話し合いを行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17		日々の就業の終わりにスタッフ全員で支援のフィードバックを行い、必要に応じて構造化などの環境調整を図っている。 月に一度スタッフミーティングを開き、目標設定や振り返り、職員の意見等を聞く時間を作っている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	7	第三者の評価は都度行っているが共有、改善のためスタッフミーティングの際の議案にするなどまだ行っていない所もある。 今後形式化できるように図って行く。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	17		法人内に、専門士(理学療法士、作業療法士)がおり、研修会を開催している。また、外部の研修会にも積極的に参加できるよう、研修費の半額を会社が負担する仕組みも用意している。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17		日々の支援の振り返りとともに、専門士からのアドバイスを受け、プログラムを作成し、公表している。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	17		契約時に細かくアセスメントをし、その後も日々保護者とコミュニケーションを図り、課題の抽出、計画を作成している。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17		日々の就業の終わりにスタッフ全員で支援のフィードバックを行い、必要に応じて構造化などの環境調整を図っている。 月に一度スタッフミーティングを開き、目標設定や振り返りを行っている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	2	日々の支援のポイントやそれによって起こった現象など記録を細かく取り、共有する流れを作っている。放課後等デイサービス計画の共有を進めているが、利用児童が多いため計画書を一冊のファイルにまとめてよりアクセスしやすくする工夫をする。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17		契約時に細かくアセスメントをし、その後も日々保護者とコミュニケーションを図り、課題の抽出、計画を作成している。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	2	設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17		スタッフミーティング等で目標の共有や、活動についてを話し合っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17		年間予定表を作製し、活動を客観的に見ながら専門士のアドバイスをもらいながらプログラムを作成している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	17		契約時に細かくアセスメントをし、その後も日々保護者や担当の相談員と細かくコミュニケーションを取り、課題の抽出、計画を作成して支援している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17		日案を作製、担当の児童を決めるなど支援前に役割、視線の内容、目的など共有し支援を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17		日々の就業の終わりにスタッフ全員で支援のフィードバックを行い、必要に応じて構造化などの環境調整を図っている。 月に一度スタッフミーティングを開き、目標設定や振り返りを行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	17		日々の支援のポイントやそれによって起こった現象など記録を細かく取り、共有する流れを作っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17		定期的な相談員さんを含めたモニタリングを行い、関係機関との協力を図り見直しを進めている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	16	1	チームで話し合いながら活動計画を作成し、4つの基本活動がまんべんなく組み合わせられるよう工夫している。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	17		支援の計画から、スケジュールをしっかりと組むことそして最終的には自己決定をできるように職員の声掛けは責任を持って行っている。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17		参画している。 二名以上で会議に出席することもある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17		保育、教育、医療など研修やサービス担当者会議などを通して積極的な連携体制の構築を目指している。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	17		積極的に行う努力をしている。 送迎時にコミュニケーションを図る、研修会などへ積極的に参加、子ども部会への参加など
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14	3	相談員を介して情報共有をするケースが多い。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	15	今年度初めて利用する児童が卒業するにあたり、必要に応じて情報の提供を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	15	2	設けているが、今後はさらに必要に応じて開催していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	17		サッカー事業の子どもとの交流の機会と、フリースクールの子供たちとの交流の機会を今後増やしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	13	4	している。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	17		送迎時や、連絡帳などにより共通理解を持てる努力をしている。今後はさらにイベントの機会などを利用して保護者の悩みや感じていることをさらに聞き取りしやすい環境を作っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16	1	行っている。靴選び講座、歩き方講座、感覚講座など 今後は支援員の支援の様子を見てもらうなどをしてさらに情報の共有と課題へのアプローチを保護者と連携して深めていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17		契約時に行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	17		アンケートや面談の機会を必要に応じて作っている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	17		同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17		必要に応じて行っているとともに、今後はイベントなどをとおしてより、相談しやすい環境を作っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	17		兄弟参加型のイベントや保護者参加型のイベント多数開催している。 今後はさらに回数を増やしていき、保護者のニーズにこたえられる機会を作っていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	17		誠心誠意迅速な対応に努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	17		活動の様子や行事予定などHUGのアプリを利用し発信している。 また、SNSによる発信にも力を入れている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17		個人情報の中でもどこまで保護者から許可を取っているかなど細かくリスト化し共有している。 また、鍵付きの書庫に保管している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	17		構造化や、伝わりやすい譲歩伝達の仕方ができるよう努めている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	17		年に一度大きなイベントで近隣住民の方を招待している。 また、地域住民の会合などに出向き、交流を図るなどしている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17		年間すくなくとも3回以上行っている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17		訓練を行うほか、福祉避難所として登録。 情報共有の場に出向き非常災害に備えている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	17		マニュアル、リスト化を行い共有をしている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	17		リスト化、スタッフ全員に見えるところに張り出すなどを行っている。 処方箋や病院に受診した時の診断結果など保護者の方へ情報提供をお願いしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17		安全性を最重要事項と捉え、日々の支援からPDCAサイクルを回している。終礼、ふりかえり、スタッフミーティング等。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	17		部屋の扉に簡易的なナギを付けさせてもらうことなど安全に関する情報を保護者の方へ説明を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	17		ヒヤリハットが出た場合は必ず、状況を細かく記入し、全体会議にかけ、スタッフミーティングで再発防止策を発表、話し合いを行うようにしている。

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	17		年に少なくとも一回以上、職員全員を対象として研修会を開いている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	17		事前に保護者に確認している。 また、支援の後の振り返りでもしものケースも含めて対応策を話し合っている。